
無敵村長

算裏 友城

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無敵村長

【Zコード】

N4335BA

【作者名】

算裏 友城

【あらすじ】

その村は山奥にあった。平和だったが、何故か現在進行形でモンスターの襲撃をうけていた。なすすべなく食い尽くされる食物、蹂躪される人々……だが村長の命が危機に晒されたとき、男は現れた。彼は問う、“村長よ、村の救世主とならないか”と。

無敵シリーズ、第五弾、無敵村長開幕！

第一爺 無敵村長 VS 悪いオーク達

「グヒヤアアアア クイモノダアア！」

「サケモ アルゾー！」

「グヒヤア コイツハサイゴーダ」

「ああ……私達の食料が……」

「ソンチョウサンヨ ノムラハ イイトゴダナア！」

「クイモノモ タップリアルシナア！」

「止めて下され、あれは我々が身を粉にして作つた作物で……」

「ウルセヒ ジジイ！」

「バキッ！」

「ああつーー？」

「グヒヤアア ナマイキナジジイダゼ イッソ ミヤシメニ

コロスカ？」

「お、お願いです、私の命なら差し上げますから、その代わりこれ以上は村の人達に危害を加えないで下さい！」

「ヤアダネ アバヨジジイイツ！」

手斧が村長の頭部目掛け振り下ろされる。ビュッ、と果実を叩き割るかの如く。が、それが彼の、村長の頭に届く事はなかつた。

グシヤツ！

オークにしようといた

一ナ、ナンダテメエハ！」

その声に、村長は恐る恐る顔をあけた。

あんたに会うのが何とか
あらわれた

“ ”

一コノ
ナメヤガツテ！
シネエエ！」

グシャア！！

オーケにしようりした

「ゼンインデカカレー！」

グ
シ
ヤ
グ
シ
ヤ
グ
シ
ヤ
グ
シ
ヤ
グ
シ
ヤ
グ
シ
ヤ
グ
シ
ヤ

オークのしゅうだんに
しょうりした

「ヒ、ヒヤアアアアアアアアアアー！」

オーケーらはにげだした

「あ、ありがとうございます……」お陰で村は救われました、なんとかお礼を申してよこせり……

「盛大には出来ないかもしだれませんが、どうか礼をさせて下さい。あなた様は村の救世主でございま……」

”
⋮⋮力が、欲しいか？”
“

「え……？」

“この村の救世主となりたくはないか？”

「そ、それは勿論、村長として村を守りたくはありますが……しかし私は見ての通り、腕っぷしにはとんと自信のない老いぼれでござります。救世主などとはとても

”なれる。力を授けよう……私の目を見る“

「は、
はる」

ビシュウ！

「アーチー、おまえのやつはおまえのやつだなー。」

翌日

「た、大変です村長！　昨日のオークがまた……」

11

「そ、村長！？」

「心配無用と村民に伝えるサム……」

そんなちょいは
しゅつげきした

第一爺 無敵村長 VS オークのボス アグウ

「コレダケノナカマガイレバ デンナヤツモイチコロダゼー！」

「コンドコソ ムラノメシヲ クイックシテヤル！」

「……モチロン、オレガイチバン一クウンダロ？ ナア、オマエタチ」

「ソノトウリデス アグウサマ」

「アレ？ ムラノイリグチニ ダレカイルゾ」

スツ
……

そんちゅうが あらわれた

「キノウノ ヲワツチイジジイカ バカナヤツダゼ！」

「グヒヤアアアア、クタバレオイボレヒエ！」

グシャアー！！

「ピィイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイ！」

アグウにじょうづした

「ア、アグウサマアアアア！」

グシャ　グシャ　グシャ　グシャ　グシャ　グシャ！

オークいちみを せんめつした

第三章 無敵村長 √S 村長補佐サム

ドンッ ドンッ！

物音にサムは飛び起きた。昨日、モンスターの襲撃があつたばかりで殆どの村民が疲れぬ夜を過ごした。サムもそうであつたが、いつの間にやら眠つてしまつたらしい。

ドン！ ドン！

「！？ 何の音だ！？」

サムは家を飛び出した。

ドン！ ドン！ との断続的な振動は、辺境の村人に馴染みなじものであった。これが首都であれば、他国のが攻めこんで来たやら、花火でも打ち上げているのか？ となるのだが。

どうやら音は村の入口の方かららしかつた。サムが辺り着いた頃には、既に村人らで「」つた返している。

「ストラさん、この音は何なんですか！？」

「サムか……見れば分かる」

「ん……？」

そんぢよ「はまるたを じめんこいつれかしてこる

ズンー ズンー

バキイ！

そんぢよ「はまるたをたたきわつている

「あ、あれは何をしてるんでしょう?」

「ああ……あたしには見当もつかねえ。サム、聞いて来ておくれよ、
村長補佐なんだろう?」

「……分かりました」

ザクツ！ ザクツ！

そんぢよ「は みぞをほつている

「あ、あのう村長? 何をなさつてるのでですか?」

ズンー ズンー

”決まつてゐる、村の周りに矢倉を築き、堀を引く”

「何の為にですか?」

バキイ！

サムにしようついた

貴様は昨日の事をもうわすれたかああ！

第四章 無敵村長 VS 反乱分子

矢倉作りは、この山間に生まれ育つた村民らにとって苦行近いものがあつた。丸太の加工にしろ先端を尖らせるにしろ、鎌や包丁、鉈、或いは斧で行のであるが、いつもの大雑把な作業ではない。それこそイーリ（ミリメートル）の単位までもが求められた。

「くそつ、やつてられるかこんな事！　俺達は設計士でもなけりやあ大工でもないんだ、出来るわけないだろ！」

「いや、しかしのう……いつまたモンスターが襲つてくるとも限らん、備えも必要じやあなからうか？」

「それだつたらちよつとした腕利きのパーティーでも雇えばいいだろ！　オーラク」とき蹴散らしてくれるだろ？」

「街からわざわざこんなド田舎に来てはくれんよ。来てくれても法外の報酬を要求されるのが目にみえとる」

「……だけど、こんなこと無意味だろ。この百年、村が出来てから一度だつてモンスターに襲われちゃあいなつて聞いたし……」

「ああ、そうだな。一度だつてない。この間のはたまたま運が悪かつただけで、偶然に偶然が重なつただけ。……私、ちょっと村長に掛け合つてくるよ」

「俺もだ、バシッと言つてくる」

「人は村長に意見しにいった。

「……ってな訳で村長、他の手を考えましょ。他の村民もみんなそう言つてますし」

ムシャ ムシャ……

そんちよひは ひるめしをたべている

「村長さん、村民らの負担も考えてやつてくれ。彼らだつて暇じゃない、今晚の食料だつて、誰が調達に……」

スッ……

そんちよひは ひるめしをたべた

「何ですか、これ？ 肉？」

”二口分はある。それを食つがいい”

「いや、そういう問題ではない」

“食べ、食つのだ”

「わ、分かったよ

反乱分子らは肉を食つた。

「おひ、意外といける……」

「なんの肉ですか？」

”才一ヶ月の肉だが？”

「オーケー! ?」

二人は慌てて吐き出した。

” 食い物を粗末にするな！”

バキイ！
メコオ！

反乱分子を鎮圧した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4335ba/>

無敵村長

2012年1月14日18時48分発行